

○ 市民参画グループ 提言書骨子案

1. 今年の経過

- ① まなびの日のブース出展
まなびの日のブース出展をし、掲示物は昨年同様にふりがなを振った
ブース出展のスタッフ募集をはぐくむサポーターに呼びかけた
- ② 子ども用パンフレットの作成
市民参画グループ内だけではなく、「子ども用パンフレット検討チーム」をつくり、案を出し合い、話し合いを重ね作成中
- ③ はぐくむサポーター交流会の開催予定
サポーターとの交流会を12月に初めて開催予定
- ④ 橋っ子祭りで配布するすごろく作成
橋本市の自治と協働をはぐくむ条例を知ってもらう機会としてすごろくを作成し来場者に配布

2. 成果と課題

1) 成果

- ① まなびの日のブース出展はすごろく
大人も子どもも楽しんでくれたようで、橋本市の名所のアピールや橋本市クイズで
情報提供もできた
- ② 子ども用パンフレットは作成中であるが、小学生に身近なデータや言葉を使いながら
説明できている
- ③ 広報はしもとの紙面掲載
広報はしもとにはぐくむ委員会や協働について記事を作成し、紙面掲載した
- ④ 「橋っ子協働まちづくりすごろく」を橋っ子祭りとまなびの日で配布
橋本市の自治と協働をはぐくむ条例の周知と、協働や橋本市の名所などを知って
もらうために、すごろくを作成し配布

2) 課題

- ① まなびの日のサポーターのスタッフを増員
まなびの日のブース出展にスタッフとしてはぐくむサポーターが来てくれているが、
いろんな年代の方の申込みや人数の増加を目指して工夫や情報提供が必要
- ② はぐくむ条例の認知度について
多岐にわたる周知活動により、少しずつ「聞いたことある」という人が増えてはきている も
のの、まだまだ認知度が低い
- ③ 子ども用パンフレットの活用
今後、どのように子ども用パンフレットの活用していくのか、協働の理解が深まるような

取組みが不可欠

④ 橋っ子協働まちづくりすごろくの活用

今回は、春夏秋冬バージョンとし、橋本の魅力と協働を知ってもらうことを目的で配布した
配布するのみとなり、そこから先の学びや活用を追えなかった

3. 第3期の課題のこれから

① はぐくむサポーターとの協働

まなびの日のブース出展の活動をサポーターに呼びかけ、条例を身近に感じてもらう
きっかけや協働の第一歩として次のステップにつなげる

② 子ども用パンフレット

今度はどう活用していくのか、その時の状況に合わせて変更していく箇所はないか
継続的に取り組む

子どものころから協働の正しい知識を学ぶ機会や交流する場が必要
関係各課との連携も進めていきたい

③ サポーター交流会

今回のかたちに固執することなく、その時の状況やニーズに合わせて内容をその都度
検討しながら継続していきたい

世代に関わらず協働や参画ができるよう、情報交換や情報共有、周知や議論、学習の場を
工夫する

④ 橋っ子協働まちづくりすごろく

目的により内容を変え、いろんなバージョンのすごろくを作成することも可能である
子どもだけでなく大人も巻き込んで、遊びながら楽しく学ぶ材料のひとつとなれば良いと考
える

4. まとめ

- ・子ども用パンフレットの活用方法（必要であれば学校教育課や教育委員会などとも相談）
- ・今後の子ども用パンフレットの見直しや媒体を広げるかどうかの検討など
- ・まなびの日のスタッフとしての、はぐくむサポーター増員のための工夫
- ・サポーターにまなびの日の活動以外で協働の活動や交流する場の取組み
- ・世代に関わらず条例や協働を知り、理解を深めることのできる環境づくり
- ・橋っ子協働まちづくりすごろくの活用の広がりを考え、ねらいごとのすごろくの作成を検討す
る
- ・すごろく活用において、遊びながら楽しく学ぶというスタンスは継続していく

○ 協働のまちづくりグループ 提言書骨子案

今期提言のテーマ

- ・行政への働きかけ
- ・地域運営組織と第 2 層の尊重

1. 到達状況

- ①職員研修において協働の事例発表を実践課題として取り上げることで、グループワーク がより身近なものとして討議、発表された。
- ②橋本市各部署間での情報共有の連携の仕組み作りの提案
- ③多様な市民と共に学習交流をして、地域運営組織検討会に参加して現状の把握をしていく。

2. 明らかになった課題

- ①協働のことは文字として見た事はあるが、情報として関わっていない人にとっては難しい。
- ②地域運営組織の認知度が低いので、長期的な実施計画の必要性

3. 解決のための提案

- ①職員研修で、職員が住んでいる所がどうすれば良くなるか話し合い、提案してくれた事を実施していくことで職員へのやる気のアプローチになる。
- ②提言の目指す骨子を地域運営組織に提供して第 2 層協議体をふまえて整理する。

4. まとめ

多様な市民が共に学習交流し、地域活動をする事で協働のまちづくりが活性化します。また、地域運営組織が人材の育成や地域交流を担って協働のまちづくりを進めていきます。

○ 情報共有グループ 提言書骨子案

① 今の到達状況

- ・具体的に協働とはどういうものか分からない、協働は難しい、という声もあります。はしもとプラチカが発足し、みんチャレを開催。幅広い年代の参加があり、協働実践の見える化につながっています
- ・橋っ子祭りでのすごろくの配布、子ども向けパンフレットの作成、まなびの日のブース出展など、子どもへの周知の機会が増えました。サポーター交流会も行いました。
- ・橋本市公式LINEが浸透しています。

② 明らかになった課題

- ・条例や協働について、聞いたことはあるが実際の中身を知らない人もいます。具体的な取り組みを知る機会が必要です。
- ・橋本市公式LINEでは、「協働」を切り口とした発信が少ないです。

③ 解決のための提案

- ・今後も引き続き、委員の各種行事のブース参加、広報紙の特集記事掲載、サポーター交流会の実施等続け、条例の周知、サポーター募集に努めます。
- ・橋本市公式LINEで、はぐくむ条例や「協働」のコンテンツを作り、協働の視点での発信を増やします。また、すでに発信されているSNSの投稿へのリンクを促し、協働への理解や意識づけを目指します。
- ・ヘスティアのInstagramは、協働で行われています。はぐくむ委員会やはぐくむ サポーターのSNSを利用した情報発信も検討します。

○ はしもとプラチカ 提言書骨子案

2024 年 4 月、市民と行政との協働実践団体として、はしもとプラチカが発足する。
一昨年のはぐくむ委員会第 2 期提言書提出、報告交流会において、「協働実践の見える化」が重要であるとの意見があり、1 年の準備期間を経て、「橋本市の協働実践の取り組みを広げること」を目的とし団体が発足した。

構成メンバーは、会社員であり地域活動にも熱心な 3 名、橋本市家庭教育支援チーム代表 1 名、市民活動サポートセンター職員 1 名、公民館職員 1 名、はぐくむ委員会の事務局でもある、地域振興室 2 名を事務局とし 8 名(うち 2 名ははぐくむ委員)で構成。

発足初年度は、自治と協働、地域活動に興味のある人材の掘り起こしを目指し、1 年間を通し 5 回の講座を実施。いずれの講座も老若男女を問わず若い世代から幅広い年代の参加があり、協働や地域活動に興味関心のある市民が多数いることが分かる。

市民が協働の第一歩を踏み出すためのきっかけになれるよう、また熱心な市民との相互交流を通じてより協働の実践が広がるようにと活動を行っている。気軽に集える場の提供から、はしもとプラチカをプラットフォームとした、協働実践活動の支え合いは橋本市の自治能力の向上へとつながるように感じる。

講座の他、ボランティア活動、イベント等に積極的に参加。SNSを通じて情報発信を行っている。
(548 文字)